

營

五年 画数 12
筆順 ムル 營 營 營
オン エイ
クン いとなりむ

成り立ち



「勞(4年646)」の意味の「艸」と、「宮(3年779)」の意味の「呂」とを組み合わせて作った字です。

「力をつくして宮殿を『いとなむ』こと」を表した字です。〔例〕造營(大仏殿の造營は大事業であった)。

「仕事を『する』という意味にも使います。〔例〕營業、経営、直營。

「計画する(計る)」という意味にも使います。〔例〕營利(營利にばかり目をやらず、世のため、人のためを考えなさい)。

また、「軍隊の留まる所」のことを言います。〔例〕兵營、陣營。

使い方

▽近頃の商店は、營業時間が長い所が多くなったので、買い物をする人には、便利です。経営者が工夫した結果でしょう。これからも買い物をする人が便利ないように、いろいろと工夫してもらいたいものです。

▽有名な奈良の大仏は、今から千二百年以上も前、奈良時代の中頃に造營されました。大仏造營を命じたのは聖武天皇です。造營には有名な僧、行基や即弁も参加しています。当時としては大変な事業でした。

熟語例

- ▽造營(立派な建物、とくに宮殿やお寺などを建てること)。
- ▽營業(事業を営むこと)。
- ▽経営(事業を営むこと。とくに規模を定め方針を決めて、事業を行うこと。「経営方針を変更する」などというふうに、つかいます)。
- ▽直營(直接、経営すること。「本社が直營している店」などというふうに、つかいます)。
- ▽營利(利益を計ること。「營利を第一に考える会社経営」などというふうに、つかいます)。

五年

衛

五年 画数 16
筆順 イイ 衛 衛 衛
オン エイ

成り立ち



「人が『すれ違う』こと」を足の形で表した「韋」と道の形を表した「行」とを組み合わせて作った字です。

人が道を行ったり来たり(パトロール)して、「警衛(警戒しまもること)」「することを表した字です。

「まもる」ことです。〔例〕護衛、防衛、自衛、また、「まもる人」のことを言うのに使います。〔例〕守衛、門衛、前衛。

「韋」のつく字には「違」「偉」「緯」などがある。「違」は「道をすれ違う」意味だが、「間違う」というようにも使う。「偉」は「常人とは違った人」の意味。「緯」は、「行ったり来たりして織る『横糸』」を表した字である。」

使い方

▽世の中は物騒なので、偉い人や、大金などには護衛が必要で。国王や大統領のまわりには、常に衛兵が居ます。現金を輸送する時にはガードマンが一緒です。こうした護衛者は、さぞ大変でしょうね。護衛の必要のない世の中が来ると良いのに、と思います。

熟語例

- ▽護衛(守ること。また、守る人)。
- ▽防衛(防ぎ守ること。「自己防衛のため、やむを得ず相手を攻撃した」などというふうに、つかいます)。
- ▽自衛(自分で自分を守ること。「国も、自衛することが必要だ」などというふうに、つかいます)。
- ▽守衛(建物の警備や、出入りする人を取り締まる人)。
- ▽門衛(門のそばに居て、人の出入りを取り締まる人。門番のこと)。

五年